

令和7年度第2回 摂津市地域公共交通協議会 議事録

開催日時 令和7年6月10日（火）10時00分～11時00分

場 所 摂津市役所 本館 301 会議室

出席者

＜委 員＞ 28名中25名参加（うち1名 Web 参加）

- (1) 摂津市長又はその指名する者
 - ・摂津市建設部 永田委員
- (2) 公共交通事業者又はその指名する者
 - ・西日本旅客鉄道株式会社阪奈支社地域共生室 今井委員
 - ・阪急電鉄株式会社沿線まちづくり推進部 阿瀬委員
 - ・大阪モノレール株式会社運輸部 中川委員
 - ・阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部計画課 田中委員
 - ・近鉄バス株式会社営業部乗合営業課 宮本委員
 - ・京阪バス株式会社経営戦略室 北西委員
 - ・千里丘タクシー株式会社 松浦委員（欠席）
 - ・株式会社国際興業大阪摂津営業所 小畠委員（欠席）
- (3) 公共交通事業者の運転手が組織する団体又はその指名する者
 - ・阪急バス労働組合 石崎委員
- (4) 道路管理者又はその指名する者
 - ・大阪府茨木土木事務所地域支援・企画課 企画グループ 田口委員
 - ・摂津市建設部道路管理課 吉田委員
- (5) 国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局長又はその指名する者
 - ・近畿運輸局大阪運輸支局総務企画部門 田中委員
 - ・近畿運輸局大阪運輸支局輸送部門 栗原委員
- (6) 公安委員会又はその指名する者
 - ・大阪府摂津警察署交通課 柴藤委員
- (7) 地域公共交通の利用者
 - ・公募市民 森田委員
 - ・公募市民 林委員（欠席）
- (8) 学識経験者
 - ・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 土井委員〔会長〕
 - ・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 青木委員〔副会長・分科会長〕
 - ・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 葉委員〔分科会運営協力〕
 - ・大阪工業大学工学部都市デザイン工学科 山口委員（web 参加）
- (9) その他協議会の運営上必要と認められる者
 - ・大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課 井本委員
 - ・摂津市商工会 島内委員〔監事〕
 - ・摂津市市長公室政策推進課（鳥飼地区まちづくり担当） 寺田委員
 - ・摂津市生活環境部産業振興課 鈴木委員
 - ・摂津市保健福祉部障害福祉課 由井委員
 - ・摂津市保健福祉部高齢介護課 細井委員
 - ・摂津市教育総務部教育政策課 小西委員

＜事務局＞ 摂津市建設部道路交通課 黒田、高畑、平神、小林

＜傍聴者＞ 2名

1. 開 会

嶋野市長（黒田課長代読）：昨年度は、皆様方のご尽力により「摂津市地域公共交通計画」を策定できたこと、心から感謝とお礼を申し上げる。昨年、市長就任後、10月22日開催の第3回協議会でご挨拶をさせていただいた際には、皆様方の本市の公共交通の確保維持に懸ける熱い想いを存分に議論いただいていることに感謝申し上げます。まさにその結晶、成果が素晴らしい計画として取りまとめたものと大変嬉しく思っている。今年度からは、本計画に位置付けられた施策の具体化に向けた取組が始まっていくところである。関係者による連携・協働がさらに深まり、「公共交通の利用者」、「交通事業者」、「事業所を含めた地域」が「三方よし」、すなわちウェルビーイングとなり、ひいては市の発展にもつながっていくことを期待している。

2. 議 題

(1) 収支決算について

土井会長：それでは、議題(1)令和6年度 摂津市地域公共交通協議会収支決算について、事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料1について説明)

島内委員（監事）：会計監査の結果をご報告させていただく。令和7年6月5日に摂津市商工会において令和6年度の決算報告書の監査を行った。帳簿と領収書、通帳のつきあわせによる確認を行った結果、決算報告書に誤りがなく適正であったことを報告する。

土井会長：ただいまの説明について、何か質問・意見等はあるか。異議がなければ、決算報告書についてご承認をいただきたいと思いますと思うが、ご賛同いただけるか。

一 同：異議なし

土井会長：それでは、令和6年度収支決算については成立とする。

(2) 予算計画（案）及び事業計画（案）について

土井会長：続いて、議題(2)令和7年度 摂津市地域公共交通協議会予算計画（案）及び事業計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料2について説明)

土井会長：ただいまの説明について、何か質問・意見はあるか。異議がなければ、予算計画案及び事業計画案についてご承認をいただきたいと思いますと思うが、ご賛同いただけるか。

一 同：異議なし

土井会長：それでは、令和7年度予算計画案及び事業計画案については成立とする。

(3) 施策の進め方について

土井会長：続いて、議題(3)施策の進め方について事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料3-1、資料3-2について説明)

土井会長：ただいまの説明について、何か質問・意見はあるか。意見がないようなので、報告事項に移らせていただく。

3. 報告事項

(1) モビリティ人材育成事業の採択について

土井会長：それでは、モビリティ人材育成事業の採択結果について、事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料4について説明)

土井会長：ただいまの説明について、何か質問・意見はあるか。

田中委員（阪急バス株）：今回のモビリティ人材育成事業で事業所を対象としたモビリティマネジメントを実施するということであるが、計画書では市民や学校、市職員を対象としたモビリティマネジメントも実施していくこととなっている。今回の取組は地域で活躍される事業所との連携になるので、市職員にも積極的に関わってもらう形でプログラム内容を検討してもらえるとよい。

事務局：市職員の参画については庁内でも意見が挙がっているところである。事業所との勉強会・意見交換会の情報は庁内でもきちんと共有し、庁内でも横断的に連携して取り組んでいきたいと考えている。

田中委員（近畿運輸局大阪運輸支局）：今回の取組は公共交通の知識・ノウハウを有する人材の育成が目的だと思うが、公共交通の認識が低い人に対しても現状を理解してもらうための良い機会だと考える。事業所との連携にあたって、どのような形態の事業所に何者くらいアプローチする予定か。

事務局：昨年度実施した座談会では、キッズファクトリーを企画する5者の事業所と意見交換を行った。主にパイプ配管工や鉄工を担う製造業の事業所で従業員は数名～数十名程度の規模である。キッズファクトリーは今年度も実施予定であり、10者程度まで参加事業所が増えると聞いている。産業振興課や商工会とも連携しながら、関係を広げていけたらと考えている。

島内委員：今年度のキッズファクトリーは11月29日（土）に開催予定である。今回は10者が参加する予定であり、それぞれの事業所の強みを活かした魅力発信を地域の子どもたちにできたらと考えている。また、学生などにも協力してもらい地域活性のイベントとして展開していけたらと思っている。

田中委員（近畿運輸局大阪運輸支局）：参加事業所に企業送迎バスを運行しているような事業所はいるか。

島内委員：マイカーで出勤する事業所が多く、送迎バスを運行している事業所はいない。

事務局：座談会では自社で駐車場が確保できていないといった話も聞いている。駐車場を新たに確保するのではなく、公共交通等の手段を使って通勤してもらうことも考えられるため、今後事業所にもメリットのある取組を具体化していければと考えている。

(2) 再生塾・基礎編セミナーへの参加結果について

土井会長：続いて、再生塾・基礎編セミナーの参加結果について事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料4について説明)

土井会長：ただいまの説明について、何か質問・意見はあるか。セミナー参加者からも感想を一言ずつお願いしたい。

森田委員：参加者は行政職員の交通担当者やコンサルタント、学識者が多く、他の自治体でアドバイザーをされている方もおり、実体験も交えながら色々と教えていただいた。特に高齢者の移動だけではなく、子育て世代の移動支援も必要であるといった内容が印象に残った。その中で事例として、子どもがオリジナルチケットを手作りし、それを実際に使うとバスに無料で乗車できるという自治体の取組を紹介いただいた。やはり大人になってからではなく、子どもの頃からバスや電車などの公共交通に触れ、乗ることが楽しいと思ってもらうことが重要だと感じた。また、他の地域でも摂津市と同

じ課題を抱えており、公共交通の問題はどこ地域も共通しているなど感じた。例えば、バスが出発する時間がバラバラなのは企業側の都合で、出発時間を「〇時 5 分」で統一する等、実際に利用する人の目線に立ったサービスになっていないといった意見があった。また、これからの時代は同業者の連携が大切になるといった話をされていた。

協議会などで検討していく際は、公共交通に乗ったことのない人のイメージだけで決めていくのではなく、実際に地域を知る行政職員や住民の意見が重要である。また、運転手不足の対応として、行政職員が運転手を担う地域もあるということであったが、それが職員の募集要件になってくると行政職員になりたいと考える人が減り、良い人材も集まりにくくなる可能性があるということであった。また、月 1 回の運転手のボランティアを地域で募集する所もあるようで、月 1 回程度であれば地域が運行を手伝うハードルも低く、実施していける可能性も高いということであった。ただし、ボランティアではあるが、報酬をきっちりと支払うことが重要であるという話されていた。

宮本委員：当社は摂津市以外にも多くの自治体と付き合いがあるが、摂津市は他の自治体と比べて、地に足をつけた実効性のある取組を一つずつ取り組んでいこうとされており、今回のセミナーでもその想いを強く感じたところである。この手のセミナーは机上の話も多いが、講師に交通事業者もおり事業者目線での話が聞けたのが良かった。また、学識者やコンサルタントなど様々な参加者がおり、色んな目線で公共交通について考えることができ、非常に有意義であったと感じている。セミナーを通じ、行政・交通事業者・市民などの利害関係者が腹を割って話していく関係性が重要であり、その上で実際にできることとできないことを議論しながら、そのギャップを埋めていくプロセスが大事だと再認識した。

北西委員：セッピー号と市内循環バスの運行形態見直しが最優先の施策ということであるが、セミナーでの、主張の強い人の意見に惑わされないようにすることが大事という話が印象に残っている。協議会などの会議では、公共交通を利用したことのない人が不便さを指摘し、それを基に事業が進むことも多いと思うが、摂津市では地域の実情にあった運行形態をどう実現していくかが課題である。地域にあった形で見直しを行うためには、会議体の構成が重要だと感じており、市民ワークショップについても公共交通を実際に利用した経験のある人に参加してもらわないと、適切な意見交換はできないと思う。例えばワークショップが始まる前にセッピー号を利用してもらおう等、ワークショップの開催方法についても工夫していくことが重要であると思う。

土井会長：本セミナーは経験豊富な学識者が講師をされており、非常に有意義だったと思う。その方たちの公共交通に対する想いも参考にしながら、摂津市にあった運行形態に見直していけたらと考える。

田中委員(阪急バス株)：再生塾セミナーでは、公共交通の利用者に対してきちんとニーズ把握を行い、それを踏まえどういう運行にしていこうかを考えることが重要といった話だと思うが、公共交通を利用しない人へのアプローチについても検討してもらえたらと思う。ある地域の公共交通を普段利用しない人の話だが、停留所でバスが止まっている時は、バスが先に発進できるように協力しているということ話をされていた。最初から公共交通を利用しない人の方が多いと思うので、そのような方たちにも協力してもらえるような体制を構築できるとよい。

土井会長：バス待ち環境の改善などには、公共交通を利用しない人にも意見をもらって協力してもらうことも可能だと思う。摂津市ではキッズファクトリーのようなユニークな取組も行われているため、このような機会を上手く活かしながら、子どもにも焦点をあてて、持続可能な公共交通の実現を目指していけるとよい。

4. 今後のスケジュールについて

土井会長：それでは、最後に今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いする。

事 務 局：(資料6について説明)

土井会長：スケジュールについて何か意見がある方はおられるか。特になければ、以上で本日の議事を終了とさせていただきます。

○ 閉 会 (11 時 00 分)

以上